



ぼくは写真で世界とつながる ～ 米田祐二 22歳 ～

祐二さんが撮影したシーサー



特別出演 彫刻家 金城 実さん

京都府八幡市から、生まれて初めて家族のもとを離れ、生まれて初めて飛行機に乗ってやってきた沖縄。たった三日間の旅だったけれど、自閉症のアコチア写真家・米田祐二君(22歳)は、たくさんの人のぬくもりに触れながらシャッターを押しました。上の写真は、彫刻家の金城 実さんのアトリエに突然おじゃましたシーン。生まれて初めてコーヒーを飲みました。そして金城さんにたくさん写真を見てもらって、お話を聞きました。



自己アピールと言葉の知識を、障害ゆえに獲得することを過回した祐二です。この時代、デジタルカメラの普及のおかげで、写真が祐二の言葉を代弁してくれました。祐二の写真アルバムを開くと、その時の祐二の声が聞こえてきます。いつのころからか、祐二の写真は祐二の教科書であり、日記であり、記憶であり、会話の媒体であり、人とつながるスキルなんだと気づきました。(母) 米田千鶴さん



国鉄(現在のJR)の順法闘争によって、乗車率300%とかいう超うとら満員電車で痴漢に遭い、過呼吸を起こした中学生の時から、私は電車に乗れない。今でこそPTSDとかパニック障害なんて病名がつくけれど、当時はそんな風に社会に認知されていなかった。結局、誰にもそのことを話せず、ホームの端で満員電車を見送って、学校では遅刻魂のレッテル...。いろんな意味で社会は私の「障害」だった。

祐二君は写真を撮ることが大好きな、気持ちの優しい青年だ。彼は「自閉症」とか「発達障害」とかって呼ばれているワケなんだけど、彼の「障害」を理解して一緒に時間を過ごしてみたら、彼が社会の障害になっていることなんてひとつもないことがわかる。そして、祐二君が息苦しさを感じるとき、祐二君が私たちの提案を拒むとき、自分の思うようにいかなくて混乱するとき、私たちは彼の個性や意思や状況を理解できていない。むしろ彼の障害になっているのは私たち自身であり、社会なんだと気づく。この映画は、初めて母のそばを離れてチャレンジャーした祐二君の旅の記録に、ご自宅での取材を加えた。ご家族が獲得してきた引き出しは、多くの障害がある人の一助になると確信している。 貞末麻哉子(PD)

米田祐二さんプロフィール
1991年生まれ。京都府八幡市在住。京都府桃山養護学校中等部3年の時、デジタルカメラで本格的に撮影を始め、高等部3年のとき以来、八幡市を中心に京都市内で写真展を開催。2009年から「京都とおきの芸術祭」では毎年受賞する他、2011年「八幡市文化賞 優秀賞」を受賞している。母・兄・祖母の4人家族。自閉症。



米田祐二写真館(撮影地は沖縄と、地元京都府八幡市周辺)



ぼくは写真で世界とつながる ～ 米田祐二 22歳 ～ 上映会 in 埼玉・狭山市

日時：2016年 **3月11日(金)** 9:40 開場 10:00 開映

会場：狭山市市民会館中ホール <狭山市入間川2-33-1> (駐車場120台完備)

入場無料

映画上映後に、映画を制作した貞末麻哉子氏によるトークと、音楽を担当した chiharu さんによるミニライブがあります

【主催】新狭山ロータリークラブ／【共催】狭山市障害者団体連絡会／【後援】狭山市、狭山市教育委員会、狭山市社会福祉協議会、東京家政大学、さやま環境市民ネットワーク、狭山ひかり幼稚園、NPO法人えじそんくらぶ、社会福祉法人こぶし福祉会、フレンズ

【上映会のお問合せ】「ぼくは写真で世界とつながる」狭山上映実行委員会事務局 TEL: 04-2952-8700 (狭山ひかり幼稚園9時～18時 平日のみ)